

第2回定例会

6月12日から15日までの4日間の日程で開催され、平成30年度補正予算、条例の改正等議案8件、意見書案10件を審議しました。補正予算は賛成多数、条例等は原案どおり可決、意見書案は9件可決となりました。
また、14日・15日の2日間にわたり、7人の議員が一般質問を行いました。

あかびら市議会

N
o
48

か
わ
5

版



浦幌町議会議場にて



5月18日 議会改革の先進地である浦幌町議会を視察してきました。

(5ページに各議員の感想があります。)

第2回臨時会

5月8日開催され、炭鉱遺産ガイダンス施設条例の制定、専決処分の承認4件の議案をそれぞれ可決、承認し閉会しました。

浦幌町の議会改革について質問



浦幌町議会の皆さん

公明党



五十嵐美知

菊島市政任期最終年度 の検証について

【質問】所信表明で5つの項目を柱に掲げており、実現できた施策と残されていいる施策のうち今年度内に何を成し遂げるのか伺う。

【答弁】1点目の「まちを創生する人口減少対策」は、総合戦略組織を設置し、市民の声や有識者の意見を反映し「地方版総合戦略」を平成28年1月に策定した。

2点目の「次世代の子ども達を育む」について、幼稚園と保育所を「一元化した認定こども園の整備は、児童福祉施設整備計画を年内目途に策定し、建設の時期、場所も示していく。小・中学校の各統合建設は、新中学校は今年7月完成予定であり、統合小学校建設の基本構想・設計などを本年度実施する。子育て支援条例の中でも毎月第3日曜日を「あかびら家族の日」と制定した。

3点目の「生きがいと安心した暮らしを支える」では、サ高住は、介護事業者による従事者確保が難しく建設予定の事業者は現在ないが、知症対応のグループホームの入居費用低減を検討する。4点目の「産業力と地域資源を活かす」では、「遊休市有地を工業系用途地域に変更し誘致企業へ無償で用地を提供する」について、近年の社会経済情勢で、企業誘致が厳しく用地提供に至っていない。

5点目の「市民の知恵をまちづくりに」では、本年度から年1回、秋の住民懇談会を開催し、まちづくり市民会議では、総合戦略施策を中心とした評価や情報交換を行っている。

【質問】地域住民より、空き家を危険な場所と挙げられているが、当市の「空き家等対策計画」策定は急務でないか伺う。

【答弁】平成27年5月に空き家対策特別措置法が施行され、当市は本年度に問題となっている空き家を「特定空き家等」と規定し「空き家対策協議会」を設置して「空き家等対策計画」の策定に取り組む。

日本共産党



木村 恵

地域防災について問う

【質問】道府ホームページの土砂災害危険箇所マップと全戸配布された防災マップの氾濫区域が違うのはなぜか。

【答弁】道府ホームページは当初の調査図面で表示している。防災マップは作成時までの現地調査の結果を反映しているので違いがある。

【質問】警報発令サイレンについて何も知らされていないが経緯と周知について伺う。

【答弁】Jアラートの全国一斉情報伝達訓練があり、サイレンは鳴らない予定だったが、滝川地区広域消防事務組合において担当者の誤操作によりサイレンが吹鳴してしまった。

翌週の町内会長会議で説明することが効果的と判断して周知したが、今後は速やかなホームページによる周知も行わなければならぬと考えている。

【質問】学校では児童生徒が活動している時間帯だった。どのように対応したのか伺う。

【答弁】緊急速報メールがなかったこともあり、対応指針に定められた対応をとった学校は1校もない。

小学校の統合について

【質問】茂尻地区での説明会を前倒しで行ったことは評価できる。3校統合への理解は得られたという認識か伺う。

【答弁】3校統合を望む声はあったが、保護者の参加が少數だったため、もう少し多くの意見をいただいていきたいと考えている。

【質問】複式学級は絶対に避けなければならないのでは理解くださいといいう説明会になっていたと思う。でくるだけ早く保護者の方々の合意を得るようにしてほしい。5月13日のPTA役員会はどうだったのか。

【答弁】統合になった際のスクールバスの運行、建設予定地、児童館などについて質問があった。7月の学年懇談会でさらに意見を伺つていきたい。

市内施設の連携イベント企画について

【質問】7月に炭鉱遺産ガイダンス施設がオープンし、さらに訪問者、観光客が増えてくると予想される。市内滞在時間を増やすための情報発信の工夫として、全課、施設、民間団体との連携と合わせて進めていく必要があるのではないか。

【答弁】今年度は、FITランバウンド向けの旅行プランの醸成や炭鉱遺産ガイドスチック施設オープニングに合わせたツアーも実施される予定である。今後も市内、施

夢現会



植村真美

地域おこし協力隊の今後の募集について

【質問】当市においても、地域おこし協力隊が活発的に活動をしている。今後も受け入れを続けてはどうか。

【質問】今後においても地域おこし協力隊の円滑な受け入れと有意義な地域活動につなげていきたいと考えている。

【質問】情報発信の工夫として、全課、施設、民間団体との連携と合わせて進めていく必要があるのではないか。

『カフェ議会』

7月7日(土)みらい
10時~16時



設、民間団体とも検討していきたいと思っている。

合葬墓について

【質問】高齢化の進む空知管内では合葬墓の需要が高まっている。また、市内のお寺、葬儀会社も行き場所のないお骨の保管に困惑することもあると伺っている。また、当市には古いお墓もあり、山間の急斜面でできているお墓や管理がなかなか難しくなっているところもあり、合葬墓の必要性が高まっていると思うが。

【答弁】合葬墓（共同墓）、二ースは高くなってきていると認識している。当市でも、他市の具体的な取り組み等を調査し検討を進めており、改めて、設置場所などのような形状・デザインにするのか、無縁仏の受入方法をどうするかなど、実度中にも結論を出し、来年度には是非実施したいと考えている。

民主クラブ



若山武信

認定こども園について

【質問】保育所待機児童解消の今後の見通しについて伺う。

【答弁】現在、保育士不足により5人の待機児童が出ている。保育士の正職員と臨時職員を募集中であり、特に正職員の募集には近隣や旭川・札幌方面の保育士養成学校へ直接出向き応募の協力を依頼している。

【質問】認定こども園を最優先とした考えに基づき、旧中央中学校跡地を利用するなど、統合小学校より先か同時建設の可能性を財政・工期の両面から課題等について伺う。

【答弁】将来を担う子ども達のため、また、少子化対策として認定こども園への移行は避けて通れず、必要な施設と位置付けている。施設内容の検討や課題解決開設できるよう検討する。

日本遺産と重要文化財について

【質問】日本遺産は8市2町での交付金をもとに広域での活性化を図ることを目指すが、重要文化財は交付金が出ていても将来のミニ市と予測される当市には財政負担が大きすぎるのではないか現不可能と思う。

市長は今まで市民説明会において、無理やり自分の考え方を押し通す等、強引な手法で多くの市民から批判的な声が上がった。この度も、6月議会に再び同じ主旨での提案をしているが、3月議会の決定や市民の声に耳を傾け、これ以上の炭鉱遺産関連事業の拡大には白紙で臨むべきと思うが考えを伺う。

【答弁】平成30年3月議会の決定を真摯に受け止め、「重要文化財指定申請書」提出の是非は「市民の合意」を前提として判断を仰ぎ、申請してはならないという結果となれば提出をしない。

なお、文化財などに関する調査・研究等は事務分掌の規定があり、これまでどおりとしたい。

民主クラブ



伊藤新一

生きがい農園について

【質問】市長の任期も残りわずかだが、公約である生きがい農園事業はいまだに整備されていない。どのようにお考えか。

【答弁】生きがい農園事業が高齢者の健康増進や介護予防、生きがいにつながるものと考えてるので整備要望はないが、引き続き老人クラブ連合会と協議していく。

【質問】以前にも質問したが、病児、病後児保育については、子育て支援においては必要な施策だと考えるのが、その後検討されているのか。

【答弁】子ども子育て会議でのご意見も伺い、雇用対策、移住定住対策の推進も念頭におきながら事業実施について慎重に検討している。

市民の交通手段の確保について

【質問】地域公共交通の著しい衰退により移動制約者が増加し、今後益々高齢化も進む中、移動困難地域の交通手段の確保についてどのような対策をとっていくのか。

【質問】夜間救急外来受診後午前2時から午前7時までの交通空白時間帯における交通手段の確保について伺う。

【質問】旧赤平中央中学校について

【質問】校舎は耐震強化になつておらず、安全面からも放置しておくわけにはいけないと思うが、どのようにお考えか。

【答弁】議会の中でも児童

福祉施設など可能性も含め
議論があつたが、旧赤平中
央中学校の除却後の活用に
ついては協議をしていると
ころである。

夢現会



竹村恵一

高齢者対策について

【質問】 第7期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の中で「認知症施策の推進」が出ている。2020年には高齢化率も48.3%と言われている状態なりにくいまちづくり」とまちづくり、「認知症になつても安心なまちづくり」といふふうなイメージで推進されていくのか。

【答弁】 地域の「認知症サポートセンター」と連携し、支援しながら、場合によっては専門職の方で組織していける「認知症初期集中支援チーム」のサポートにつなげる。予防・早期発見・早期対

課題克服への考え方を伺う。

応で予防から終末期まで切れ目のない支援として推進していく。

学校における働き方改革について

質問

教員が子どもと向き合う時間を確保するための取り組みが必要となつてきている。

道教委により本年3月にプランが策定され、全道の学校において改革を進め、

市教委の取り組みを促すものとされている。当市はどういうような対応が計画されているのか。

【答弁】 市町村教委の役割は、市町村立学校における働き方改革を進めるための計画等を地域の実情に応じ、アクションプランに準じて作成することである。

当面の取り組みとして、学校職員が休養を取りやすい環境整備として学校閉庁日の設定、部活動休養日の実施、部活動指導員の配置を進め、部活動指導にかかる負担の軽減、スクールカウンセラー特別支援教育支援員、スクールサポートスタッフ、退職教員等外部人材の配置を進め、本来担当業務に専念できる環境整備を図る。

【答弁】 当市もアクションプランで指摘されている現状に類似していて、喫緊の課題と考えている。速やかに現状把握と課題克服へ取り組んでいく。

民主クラブ



向井義廣

生総合戦略と効果検証について

質問

事業評価に基づいて変更されたり、優先順位、取りやめる、新たに追加するものはあるのか伺う。

【答弁】 総合戦略会議の中でも「事業内容の変更」や「取りやめる」などが論議されたが、基本的に「着実に実施」することが重要であるとされ、変更や取りやめといった結論には達しなかつた。

総合戦略会議、みらい部会の意見を尊重し、各課題に取り組んでいく。

は無理がないか。

【答弁】 合計で59もの施策があるということもあるので、議論とすることで、より活発な発言ができるとも考えられ、昨年提案のあった「グループ形式」も、今後これらも含めて検討していきたいと考えている。

質問

事業評価を幅広く取り入れる考え方について、しごと・ひと・まち創生総合戦略と効果検証について検証結果を見て思うことは、市の政策や事業に転換して広げる考え方はないのか。

質問

【答弁】 地方創生は、人口減少を克服し、将来にわたって成長力を確保するため、引き続き、人口・経済・地域社会の問題に対しても取り組んでいかなければならぬものである。総合戦略の枠に捉われず、総合戦略の枠に捉われず、社会の需要に沿った、施策の展開を進めていきたいと考えている。

【質問】 4つの基本的な目標と11の具体的な政策、59の事業を一つの会議で行うに



《意見書 9件 可決》

- ・日本年金機構の情報セキュリティー対策の見直しを求める意見書/・旧優生保護法による不妊手術の被害者救済を求める意見書/・地域材の利用拡大推進を求める意見書/・ライドシェアの推進に対する慎重な審議を求める意見書/・2019年度地方財政の充実・強化を求める意見書 /・2018年度北海道最低賃金改正等に関する意見書 /・教職員の長時間労働解消に向け、「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法(給特法)」の廃止を含めた見直しを求める意見書/・教職員の超勤・多忙化解消・「30人以下学級」の実現、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「子どもの貧困」解消など教育予算確保・拡充と就学保障に向けた意見書 /・選択的夫婦別姓制度を導入する民法改正を求める意見書

植村 真美

町議会全員が視察対応いただき、質問の内容によって、各担当者からお応えをいただいたことをはじめ、チーム議会の結束力の強さを感じた。

また、議会改革の内容は、どれを見ても先進的な取り組みで経過の中において、議会活性化講演会を通して、専門家から学ぶ機会を町民とともに共有していること。

また、議会事務局の理解や協力体制も手厚く、町民、行政と議会が一体となり取り組むことが重要だと強く感じた。

五十嵐 美知

人口は5,000人弱のまちでしたが、浦幌町議会は10人の議員で議会活性化に果敢に取り組み、学ぶことが多くあった。

平成23年から25年にかけて、議会活性化について、北海学園大学の神原教授などにより、講演会や意見交換会などを通し、現在の豊浦町議会活性化に結びついたと感じ、参考にしたいと思う。

平成28年3月より、チーム議会初の「まちなかカフェDE議会」の開催、「まちなかおじやまDE議会」、3月は「ナイター議会」などに取り組んでいました。

木村 恵

議員のなり手不足についてなかなか特効薬がないといったことを話されていて残念だった。赤平市議会も、このまま何もしないでいると、議員・議会の高齢化は訪れると思う。

市民の議会への関心が弱くなり、議会の空洞化や定員割れも起こり得る。議員個人の資質の向上は言うまでもなく、議員・議会がより市民に近い存在、より親しみやすい存在と思われるよう改革していくことが大切で、議会基本条例は改革を進める大きな推進軸として検討していくべきものと考える。

竹村 恵一

浦幌町議会へ、議会活性化についてと言う意味での視察でしたが、持っている課題、問題点などは類似していて、取り組みについては非常に参考となった。

時間が足りなく、一番聞きたかった「カフェDE議会」への取り組みの情報は少なかったが、我々が今後考えて行かなくてはならないことへのヒントはいただけたと感じた視察となった。

「5月18日」浦幌町議会を視察して**北市 獣**

議会活性化について、先進的改革を進めている浦幌町議会議員と意見交換の中で、特に「議員のなり手不足について」は開かれた議会、解り易い議会を目指し日曜議会、ナイター議会など努力をしているが、特効薬はないとのことでした。

「議会基本条例」は、条例に議会報告会の開催や議会モニターの外部評価を取り入れたことにより、議会に対する理解に変化を感じている。さらに、議員の意識にも変化が生まれ制定は効果があったとのことで、赤平市議会でも議会開催日の工夫や議会基本条例の制定など更なる検討が必要であると感じ大変参考になった。

各議員のコメント

赤平市章と浦幌町章

若山 武信

浦幌町議会を視察して議員のなり手不足を項目別に分類し、国などの協議内容や選挙制度も含め総合的に検証、議会運営には政策形成(監視機能・政策提案)マネジメントサイクルを採用、その検証結果を参考に次回の議会議員選挙に向け、町民に検討をお願いすること。

現在、私達も色々な角度から検討しているが、若者が積極的に議員を目指すには将来に対する財政的裏付けが必然的で、国政レベルでの補償を要するため制度見直しの国への要請が必要と思われる。

伊藤 新一

開かれた議会としてその活動を表彰された浦幌町議会を視察してきた。

他の自治体でも問題になっている「議員のなり手不足」については、検証を進め意見書を提出したり、意見交換会、講演会等を行っていたが、他の市町村と同じく具体策が見当たらないのが現状だった。

議会基本条例については赤平市でも取り組めるものについては参考にしていきたい。

今後も開かれた議会を目指し、議会改革に取り組んでいきたいと思う。

向井 義擴

浦幌町は、議会改革で全国上位の先進地域で視察研修を行ってきた。議会の透明性を図るということは、委員会、本会議の内容が市民に伝わるようにするネット配信等が必要だと思う。

分かりやすくという点ではかわら版は非常に有効だと思うが、議会の内容を詳しく伝えるには、より充実した広報紙としていかなければならないと思う。

議会の動き

3/23	議会改革検討協議会	
4/23	行政常任委員会	
	・あかびら市立病院の経営状況(12・1・2・3月分)	
	・平成30年度地方税制改正の概要（抜粋）	
	・赤平市児童福祉施設整備計画	
	・移転後の子育て支援センター（視察）	
	・統合中学校に係る経過報告	
	・統合小学校に係る経過報告	
	・炭鉱遺産文化財化の動向	
4/23	議会運営委員会	
5/ 2	議会運営委員会	
5/ 2	議会改革検討協議会	
5/ 8	第2回臨時会	
5/ 8	議会運営委員会	
5/18	議会改革検討協議会 浦幌町議会視察	
5/22	議会改革検討協議会	
6/ 7	議会運営委員会	
6/ 7	議会改革検討協議会	
6/12	第2回定例会(～15日)	
6/12	議会運営委員会	
		6/13 行政常任委員会
		・赤平市職員の特殊勤務手当支給に関する条例の一部改正
		・赤平市立学校設置条例の一部改正
		・赤平市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正
		・赤平市国民健康保険条例の一部改正
		・赤平市介護保険条例の一部改正
		・赤平市過疎地域自立促進市町村計画の一部変更
		・平成30年度赤平市一般会計補正予算
		・平成30年度赤平市病院事業会計補正予算
		・JR北海道の「単独では維持することが困難な線区」とした「根室線（滝川～新得）」の現状について



全国市議会議長会 表彰状伝達式

議員在職15年以上 北市 黨議長

6月21日 加賀市議会議員が赤平市を視察に来ました !!



かわら版編集委員会 委員長 向井 義擴
木村 恵 五十嵐美知 遵 御家瀬 惠
竹村 恵一

6月の第2回定例会も終わりました。次は例年行つてゐる意見交換会を、新しい試みとして、「みらい」の2階で、カフェ議会として開催いたします。議員が交代制で常にいますので、お茶をしながら、気楽にあ話し合せんか?是非ご来場ください。

7月は赤平最大のイベント火まつりがあります。

町全体が盛り上がり、熱い熱い2日間にしましよう!

9月になると第3回定例会があります。どなたでも傍聴は可能ですので、是非一度議場へお越しください!

皆さん、夏の体調管理に気をつけて、日々の生活をお過ごし下さい。

編集後記

※このかわら版のお問い合わせは、赤平市議会かわら版編集委員会TEL32-1858までお願いいたします。